

西曆 2025 年度 事業計画

社会福祉法人 千鳥会

目 次

法人本部	4～6
千鳥会ゴールド拠点 津名デイサービスセンター	7～8
ゆうらぎ拠点・北淡荘 ゆうらぎデイサービスセンター ゆうらぎ訪問介護ステーション 養護老人ホーム 北淡荘	8～13
ほほえみ拠点 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ 千鳥会デイサービスセンターほほえみ 小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	13～19
LEVN 小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり 千鳥会居宅介護支援事業所 千鳥会在宅介護支援センター 家族介護教室・家族介護者交流事業 高齢者住宅等安心確保事業 ちびっこランドぬくもり グループホームRAVIE	19～24
グループホーム しおさい しおさいデイサービスセンター	24～25
佐野デイサービスセンター	25～26
ちびっこランド ちどり	26～27
千鳥会福祉用具貸与事業所	28

法人本部 事業計画書

西暦 2025 年度目標

2024 年度は介護報酬、障害福祉サービス、診療報酬等の「トリプル改定」が実施され、

介護報酬等の改定率も全体でプラス改定となりましたが、コロナの感染の影響や物価高騰等により、法人の事業にも大きな影響を及ぼしました。

厳しい社会情勢が続く中でも、千鳥会の理念に基づいた事業運営を進め地域の皆様に喜んで頂ける安心・安全なサービスを提供して参ります。

「新型コロナウイルス」の感染拡大は、全世界の人々の生活様式を一変させ、社会情勢はもちろん社会福祉の領域においても大きく変わり、少しずつ日常を取り戻しつつありますが、季節性インフルエンザとの同時流行などもあり、感染拡大防止対策への対応に苦慮しながらも、実施できる事業は可能な限り実現させていきます。

又、水道光熱費、燃料費、給食費・委託費等にかかる物価高騰に加え、建築費、人件費の上昇に関する課題について、実態を把握し各自治体等においてバラツキがあり、解決に向けて、提言・要望等を継続していきます。

今後も自立支援・重度化防止を重視した、質の高い福祉サービスと安定した運営が提供できるように進めて参ります。

『西暦 2025 年度法人取組課題』

I 利用者に対する基本姿勢

- ① 人権の尊重
- ② サービスの質の向上
- ③ 地域との関係の継続
- ④ 生活環境・利用者環境の向上

II 社会に対する基本姿勢

- ① 地域における公益的な取り組みの推進
- ② 信頼と協力を得るための情報発信

III 福祉人材に対する取組

- ① トータルな人材マネジメントの推進
- ② 人材確保に向けた取り組みの強化
- ③ 人材定着に向けた取り組みの強化
- ④ 人材育成

IV マネジメントにおける基本姿勢

- ① コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
- ② 組織統治(ガバナンス)の確立
- ③ 健全な財務規律の確立
- ④ 経営者としての役割

1. 理事会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2025年 6月	理事会 (前年度事業報告・決算報告・監事監査報告)
第2回	2025年 6月	理事会 (役員改選)
第3回	2025年 8月	理事会 (経営・運営等の現状報告)
第4回	2025年 12月	理事会 (経営・運営等の現状報告・補正予算)
第5回	2026年 3月	理事会 (新年度事業計画・新年度予算)

※ 臨時理事会を開催する場合があります。

評議員会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2025年 6月	評議員会 (前年度事業報告・決算報告・監事監査報告・役員改選)

※ 臨時評議員会を開催する場合があります。

※ 評議員選任解任委員会

開催年月	協議内容
2025年 6月	評議員改選

※ 監事による監査等

開催年月	協議内容
2025年 5月	前年度収支決算の監査

決算書類等の備置・閲覧

定時評議員会の2週間前から備置

3 重点項目

① グループホーム RAVIE(ラヴィ)

2025年4月増築開設

5床 ⇒ 9床

② 災害時支援体制の構築に向けた取組

新型コロナウイルスの対応経験を踏まえ、将来の感染症の大規模発生においても事業継続できるための体制整備について検討していく。

2024年1月に発生した能登半島地震により大きな被害が発生しました。2011年の東日本大震災や2016年の熊本地震・1995年の阪神淡路大震災等により、平時から法人間等で災害福祉の視点を取り入れ、相互支援体制の構築に向けた取り組みを推進し実効性のあるものとしていく。

③ 福祉の人材確保(採用・育成・定着)と効果的な広報戦略

福祉の人材確保(採用・育成・定着)に向けた取り組みをさらに強化していくために、効果的な広報戦略と合わせて福祉の職場に対するイメージアップを図るとともに、処遇改善施策、「働き方改革」、現場における生産性向上とICT等の活用に向けた取り組みを行っていく。

人材不足の解消とともに多様な福祉人材を促進するため、高齢者・障害者・外国人などもターゲットとして、短時間労働やダブルワークなど多様な働き方の推進なども取り入れて、情報発信していく。

④ 着実な事業実施のための経営基盤づくり

目標利用率の確保・達成

予算執行管理の徹底とコスト意識の向上

千鳥会ゴールド拠点

2025 年度事業方針

- 1-1.常にご利用者・ご家族・その周りにいる人の立場に立って良質かつ適切なサービスを提供する。そのためにもサービスの質の向上に向けた体制を構築する。
- 2-1.立地条件に応じ、非常災害・感染症に対する具体的計画を整備し、それに基づいて実効性のある訓練を実施していく。
- 3-1.事業所が運営していくためには、ご利用者・ご家族・地域等からの信頼・協力が必要であり、「見える化」にとどまらない「見せる化」を推進し、積極的な情報発信に取り組む。
- 4-1.人口減少に伴い労働力人口が減少する中で、良質なサービスを効果的・効率的に提供していく為に、業務の見直し・ロボットや ICT といった先進的な技術を用いた業務を推進していく。
- 4-2.定期的に業務の見直しを行い、「効率化」を目指し、職員の負担軽減につながるのと同時に、専門的に業務に集中できサービスの向上に繋げていく。
- 5-1.福祉サービスの継続と発展のために、事業所内の職員が円滑で良好なコミュニケーションを取りながら業務を進め、組織風土づくりを推進していく。
- 6-1.社会福祉関係法令・介護保険関係法令等を遵守し、公共的・公益的かつ信頼性の高い経営を行っていく。
- 7-1.適切な収益の確保に向け、将来を見通した計画的かつ効率的な事業運営を行う。

特別養護老人ホーム千鳥会ゴールド

2024 年度 総括

職員の退職・体調不良の影響により厳しい運営状況になりましたが業務内容の見直し、業務体制の変更を行い対応しました。職員体制を確保出来なかった問題もあり、利用人数を調整した事により、稼働率は平均 77.03%（長期+短期：61 名）になりました。感染症の発生については、感染予防対策、感染者対応が徹底できたことで施設内でのインフルエンザ発生ありませんでした。新型コロナウイルスについては 4 名の利用者の療養はありましたがクラスターにならず回復されました。特に大きな事故・クレームも無く 1 年無事に運営することができました。取り組みとしては、コロナ禍以前の生活に戻していくため感染対策を継続した上で、対面面会日を増やし、ご家族参加型の敬老会、レクレーションの充実を図りました。また新たに「夢を叶えるプロジェクト（通称：夢かな）」を開始し、長期のご利用者の夢を叶えるという取り組みを行いました。施設での生活の中でもやりがい、楽しみ、意欲的な活動ができるよう計画、実行しご利用者、ご家族から喜びの声を多数頂いています。内容としては、「自宅に帰りたい。買い物に行きたい。美味しい物が食べたい。」などになります。施設での取り組みや活動を知ってもらうために SNS を活用し、外部やご家族に発信することができました。現在長期入所待ちが 60 名（前年度比-22 名）、2024 年度の申込者が 33 名（前年度比-6 名）おり、選ばれる施設としての取り組み、サービスの維持ができておりますが、来年度も顧客満足向上、サービスの向上に向けて取り組んでいきたい。

2025 年度事業計画

2025年度は、職員体制の確保、業務内容の見直し等により安定した収入の確保、サービスの向上、顧客満足向上を目指して取り組みます。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い、安心、安全な運営に努めたい。

津名デイサービスセンター

2024年度 総括

2024年度の稼働率の平均は70.9%（前年度比較：-3.7%）。延べ利用者数9655人（-434人）。新規利用者数31名（-7名）となりました。新規利用者獲得の為、ケアマネ見学会の実施、営業活動、SNS等を活用した情報発信など積極的な活動を行いましたが、稼働率が減少してしまいました。要因としては要介護3以上の施設入所、医療機関への入院の増加が大きいと考えられます。

施設の老朽化が激しく改修工事（トイレの改修、食堂の拡大、キッチンの増設）を約半年掛けて実施しました。新しいトイレはご利用者の能力に合わせた自立支援が可能な環境になり、新しく設置したキッチンは食堂にあることで、見守り、洗い物などの業務の効率化を図ることができました。また事故、アクシデントについてはリスクマネジメントを行うこと、迅速な初動対応を行うことで、大きなクレームに繋がることはありませんでした。淡路市通所連絡会への参加、地域との交流（津名高校文化祭参加、ココロアートコンテストへの出展）、SNSを活用した取り組みの発信などを積極的に行うことでデイサービスの良さ、取り組みをアピールすることができました。

2025年度 事業計画

2025年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持、新しいサービス内容への挑戦、津名デイ独自の取り組みの発展を行い、安定した収益を確保していきたい。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い、安心、安全な運営に努めたい。

ゆうらぎ拠点

2025年度 事業方針

- 1-1 サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために、予防処置を立案し潜在的な原因除去に努め、事故の低減を図る。
- 1-2 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。
- 1-3 BCP（事業継続計画）に基づき、大規模災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが継続できるように訓練を実施する。
- 1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の教育訓練を充実させることにより、倫理意識の向上に努める。
- 2-1 基本的な感染対策を実施しながらも、視点を変え、新たな気持ちで、利用者が日々喜びを感じられる生活環境提供に努める。
- 2-2 利用者情報（既往歴・生活歴）を把握することにより、身体的・精神的に安全・安心な利用者環

境提供に努める。

- 3-1 施設の様々な機能や役割を SNS・広報を通じて情報発信することにより、地域における立ち位置を明確に示す。
- 4-1 施設の魅力・提供するサービスの内容等、積極的に情報発信することにより、法人のブランド力をアピールする。
- 4-1 良質なサービスを効果的且つ効率的に提供するために、ロボットや ICT と言った先進的な技術導入を検討する。
- 5-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 5-2 明確な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援を実施し、職員満足度向上に努める。
- 5-1 正しい判断力と優れた創造力を持ち、責任感の強い職員の育成と高度な専門技術習得支援に努める。
- 6-1 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則を遵守し、法令及び規則違反の撲滅を図る。
- 7-1 稼働率の向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。
- 7-2 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を実施する。

特別養護老人ホームゆうらぎ

2024 年度 総括

施設入所、短期入所生活介護について、筋力の低下や認知症等により自身による危険認識が難しい利用者様のニーズが高まっており、ゆうらぎにおいても予防対策を始めとしたリスクマネジメントに取り組むところにはありますが危険予測が難しいケースも増えており、2024 年度について骨折等、受診を伴う重大アクシデントが 7 件と非常に厳しい結果となっています。今後、継続した予防対策の他、介護ロボット等の見守りシステム導入も視野に入れ、事故防止に努めていきたいと思っております。

2024 年度についてはコロナウイルス規制緩和が社会全体に浸透し、生活様式についてもコロナ過以前の水準に戻りつつありますが、2023 年 5 月コロナ感染 5 類移行後もコロナ感染による死者は約 4 万 4 千人となりその 80% 以上は 80 歳以上の高齢者となっています。ゆうらぎにおいても 2024 年 8 月に施設内コロナ感染が発生し入所者 5 名の感染、内 2 名の死亡がありました。高齢者施設にとってはまだまだ安心できる状況ではない為、今後も BCP 感染計画に基づき感染対策訓練、防止対策に注力していきたいと思っております。

施設利用状況について 2024 年度については、多くの利用者様、家族様、居宅介護支援事業者様、医療機関様のご理解、ご協力により大きな稼働率の低下はなく、年間平均 95% 以上の施設稼働状況に落ち着いています。ただ昨年度以上に介護職員の不足が深刻化しており、法人全体で求人拡大に取り組んではいまいすが、社会全体として成り手が不足しており安定した介護職員確保には繋がっていないのが実情となります。ゆうらぎが提供させて頂いているユニットケアはサービスを維持するにあたり多くの介護職員が必要な事業になります。このまま職員確保ができず人員が今以上に低下した時には、サービスの縮小（定員減少、ユニットケア体制の見直し等）も考えざるを得ない状況に至っており、その対応により施設運営も大きく左右される可能性があります。このような大変厳しい状況にありますが、信用や信頼を一番に考え、利用頂いている利用者様や家族様にご迷惑をかけることがないよう、ゆうらぎ全体で精一杯取り組みたいと思っております。

2025 年度 事業計画

来年度について介護職員不足により施設運営も大きく左右される可能性が高いですが、利用頂いている利用者様や家族様への感謝を忘れず、高品質なサービスを提供できるようゆうらぎ全体で取り組みたいと思います。昨年度、介護保険改定により BCP 事業計画、口腔管理体制、身体拘束廃止措置が義務化となった項目について継続しマニュアル、計画書の整備や見直し、職員教育訓練に力を入れ取り組んでいます。また次回 2027 年度の介護保険改定で義務化が予定されている生産性向上への取り組みについても、生産性向上委員会を立ち上げる等、今後の義務化に対応できるよう取り組みを行っていきます。上記にも記載の通り、介護職員不足の深刻化により、見通しが明るい状況にはないですが、1 日 1 日を精一杯、取り組み、少しでもゆうらぎ全体が良い方向に進んでいけるよう職員一同、尽力したいと思います。

ゆうらぎデイサービスセンター

2024 年度 総括

デイサービスでは稼働率向上を最大の目標とし、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指し、利用者に満足して頂けるよう職員個々が知恵を出し合い、常に新しい行事・レクリエーションを企画・実施し、日々変化のあるデイサービスを目指し頑張っており取り組んでいっています。

2024年度は、利用者の体調不良による入院、また高齢化に伴った独居での生活困難による施設入所が増え、目標の稼働率を達成することができませんでした。また、特定利用者が数名亡くなられ、胃腸炎等で利用が中止となった日もあり、特定利用者の割合が減少し、稼働率も大幅に落ち込んでしまいました。まだまだ感染症も続いており、日頃からの対策と予防を徹底し、利用者・家族の理解を深め、事業所内での蔓延を防ぐ事につとめていきます。

今後も利用者の高齢化に伴い、体調不良で入院されたり、独居が難しくなり施設入所されたりする方が増えていくと思いますが、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指すため、たくさんの喜びの声を頂くと共に、楽しく過ごす様子を SNS にて発信していくことで、選ばれる施設になれるよう職員一丸となって精一杯取り組んでいきたいと思っています。

2025 年度 事業計画

デイサービスでは、利用者の「自立支援・重度化防止」を軸足に置いた介護を基本とし、利用者が可能な限りその居宅においてその有する能力に応じて自立した生活を営むことが出来る様サポートと、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持を図るとともに、家族の介護負担を軽減するなどの役割もしっかりと担っていただける様関係事業所と密に連携をとり運営していきたいと思っています。

レクリエーションの充実を図ることで、体を動かすゲームや作品作りなどで刺激のある生活を送り QOL(生活の質)の向上により認知症予防に繋げ、筋力を強めることで寝たきり予防をすることに繋げていきます。利用者・家族の個々の要望を聞くことにより、満足度 UP に繋がり、稼働率向上、また利用数増回に向けていきたいと思っています。

様々な感染対策を徹底し安心・安全な環境を提供する事、職員研修・BCP 事業計画の充実を図り、稼働率向上に職員一丸となり取り組んでいきたいと思っています。

ゆうらぎ訪問介護ステーション

2024 年度 総括

今年度も事業方針(目標)に向かい達成できるように支援し、目標達成に向け頑張っており取り組みました。感染ゼロを目標とし取り組み、職員感染はありましたが訪問介護員が媒介することもなく過ごすことが出来ました。

災害や、感染症の発生時、サービスが継続できるように、BCPについて学びましたが、訪問独自のBCPについてはまだまだ不十分であり、今後の課題として、新入職員への指導含めBCP(事業継続計画)については、何かをもう一度学びなおして事業所として災害発生時にはどう対応していく事がいいのか、事業所独自のBCP見直しは行っていますが作成中の為完成できるよう取り組んでいかなければならない。

教育訓練についても今年度も同様、職員一人一人新たな気づきや振り替えることによりより一層意識も向上したかと思えます。職員一同初心に帰り今まで学んだことでも些細な不明点、どうしたらいいのか等意見があった場合、個々に勉強会を実施、指導し、勉強会等で学んだことを活かし視点を変えての取り組みを実施してきました。訪問の際も同行訪問を行い介助方法についてもアドバイスをを行い同行訪問の回数もできるまで指導をなるべく行い取り組みました。

ご利用者からの声や家族からの喜びの声もいただいております。今年度はケアマネージャーとも密に連絡を取り、早期に対応したり細かなサービスも追加したりご利用者に満足いただけるよう精いっぱい取り組みました。利用者数は、施設に入居する方や入院が長引く方が多い中で終了する方もありました。また、新規利用者も少しずつ増えました。新規依頼もたくさんありましたが日程が合わない、ヘルパーが不足と言った状況でお受けできないことも多々ありました。終了の方でも施設に入居してしまう方もおられる中自分で自立出来、ヘルパーを卒業する方もおられ、良い成果が出た結果もありました。来年度も、訪問介護の満足度を上げ利用者に喜んでいただけるよう実施していきたいと思っております。事業所の情報発信(ヘルパーだより)も目標に上げ今年度は発行できました。次年度も引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

2025 年度 事業計画

新型コロナウイルス、インフルエンザ等未だ落ち着かない中、感染ゼロを目標に頑張ってきましたが感染ゼロ目標達成できませんでした。しかし職員がご利用者に媒介する事無く訪問出来た事は本当によかったと思っております。今年度も感染には気を付けしっかりと対策した中で訪問を心がけ、ご利用者の生活環境についてもしっかりと目を向けて取り組んでいきたいと思っております。

2024年度はBCP事業計画等も義務化され、勉強会、訓練の実施等にも力を入れてきました。今後も義務化された項目について勉強会を確実に実施し、サービスの向上に繋げることができるよう取り組みたいと思っております。

2024年度はご利用者の入れ替わりも多く、入院、施設入所のご利用者も多く稼働率もなかなか上がらない中、介護報酬の改定で加算率が下がり事業所として厳しい状況ではありましたが、ご利用者のサービス内容を都度、見直しを行って、ケアマネージャーと密に連携を図り取り組んで参りました。今年度も引き続き多職種とも連携を取っていき、新規ご利用者の取得を行い、稼働率の向上も目指していきたいと思っております。

北淡荘拠点区分

2025 年度 事業方針

- 1-1 サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために、予防処置を立案し潜在的な原因除去に努め、事故の低減を図る。
- 1-2 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。
- 1-3 BCP（事業継続計画）に基づき、大規模災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが継続できるように訓練を実施する。
- 1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の教育訓練を充実させることにより、倫理意識の向上に努める。
- 2-1 基本的な感染対策を実施しながらも、視点を変え、新たな気持ちで、利用者が日々喜びを感じられる生活環境提供に努める。
- 2-2 利用者情報（既往歴・生活歴）を把握することにより、身体的・精神的に安全・安心な利用者環境提供に努める。
- 3-1 施設の様々な機能や役割を SNS・広報を通じて情報発信することにより、地域における立ち位置を明確に示す。
- 4-1 施設の魅力・提供するサービスの内容等、積極的に情報発信することにより、法人のブランド力をアピールする。
- 4-1 良質なサービスを効果的且つ効率的に提供するために、ロボットや ICT と言った先進的な技術導入を検討する。
- 5-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 5-2 明確な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援を実施し、職員満足度向上に努める。
- 5-1 正しい判断力と優れた創造力を持ち、責任感の強い職員の育成と高度な専門技術習得支援に努める。
- 6-1 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則を遵守し、法令及び規則違反の撲滅を図る。
- 7-1 稼働率の向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。
- 7-2 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を実施する。

養護老人ホーム北淡荘

2024 年度 総括

2024 年度は、前年度と同様、北淡荘稼働率向上を最大目標とし、1 年間通して職員全体で取り組んできました。2024 年 4 月稼働率 88.6%からスタートした年度初めでしたが、2025 年 3 月には 89.2%、月平均 90.6%という結果となりました。2024 年度、新規入所者数 31 名、退所者数 30 名。

新規入所者について、島外からの新規入所者は 1 件もなく、すべて島内の措置入所となり、「措置控え」という問題が身近に北淡荘にも現れています。しかし島外からの依頼はなくとも、年間を通して 31 名の新規入所者確保する事が出来た事は、北淡荘と福祉事務所間で良い関係を築きあげ、また民

生委員の方たちにも情報発信し、北淡荘の存在意義や価値を伝えられたのも、多くの入所者確保に繋がった結果と思います。

感染症については、2025年1月にインフルエンザ感染者3階1名、2階1名と出ましたが、初動対応・感染者対応がしっかりと出来た事により、最初の感染者以上に感染者を出すことなく、終息を迎える事が出来ました。

2024年度も稼働率が思うように向上出来ずに苦しい展開となりましたが、前年度より多くの新規入所者を確保しスムーズに受け入れが出来た事は、北淡荘職員全体に、稼働率向上に向けての理解と協力があっての事だと思います。これからも厳しい状況は続いていくと思いますが、職員同士が相互理解・共通認識を持ち、チームワークを高める事により、職員が働きやすい環境、入所者が生活しやすい環境を整え、より素晴らしい北淡荘を創っていきたいと思っています。

2025年度 事業計画

来年度は入所定員が168名から150名へと定員を減少し、相談員職員は1名減となります。入所者は現在とほぼ変わらず、職員が減る事となりますが、今までと変わらないサービスを提供していきたいと思っています。

又、慢性的な人員不足が継続しています。新しい人材に頼らずとも、既存の職員を大切にし、信頼関係を築き上げ、職員一人一人がやりがいを持ち働き続ける事が出来、苦難を共に乗り越えられる北淡荘を目指して行きたいと思っています。

ほほえみ拠点

2025年度 事業方針

- 1-1. 褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等のゼロ宣言。また、教育訓練を充実させ、倫理意識を向上させる。
- 1-2. 介護技術や知識等の内部研修や外部研修への積極的な参加を行い能力向上に努め、ケアの向上を図る。
- 1-3. 感染対策の徹底と感染予防を継続し集団感染ゼロを目指す。
- 1-4. 予防処置の徹底し前年度より重大アクシデント発生を減らす。
- 1-5. 新しい調理方法の確立と食事ロス、食の満足度を向上させる。
- 1-6. 介護ロボットの導入を検討し、業務の効率化と介護負担の軽減を図る。
- 2-1. 事業所が有する人的・物的機能を活用し、事業所自ら又は地域の団体等と連携して、様々な地域貢献活動を積極的に展開する。
- 2-2. 各事業所において、緊急・困難ケースについて可能な限り受け入れるなど、セーフティネット機能を果たす。
- 3-1. 施設における様々な取り組み等をSNS・広報を通じて情報発信を行い、ご家族や地域等に対して必要な情報を提供する。
- 5-1. 職員の資質向上と職業倫理の徹底を図るために、各種研修会の開催や外部研修会に積極的に参加する。

- 6-1. 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則、法令の周知徹底を行い、法令及び規則違反を無くす。
- 6-2. 災害 BCP 計画に基づき地域住民と共同した災害訓練を実施し迅速に避難対処・対応が出来る様にする。
- 7-1. 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

地域密着型特別養護老人ホームほほえみ

2024 年度 総括

開設から 13 年が経ち、2024 年度は

- ①褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント、集団感染のゼロを目指す。
 - ②クレーム、アクシデント及び重大アクシデント(行政への提出する事故)の件数を前年度より減少させる。
 - ③職員の資格獲得のための支援を強化し、サービスの質の向上と新たに算定可能な加算の取得を行う。
 - ④介護ロボットやテクノロジー等の活用を通して、業務の共同化、移管、生産性の向上を図る。
 - ⑤利用者、家族、関係機関、地域住民や学生等との交流や地域貢献活動を実施し、情報共有や発信を行う。
 - ⑥緊急受入や困難ケース等のニーズに合わせたサービス調整を部署間連携し、柔軟かつ積極的に行う。
 - ⑦全職員対象に 1 回以上/年、資質向上と職業倫理の徹底に繋がる研修会や講習会、交流会、活動等に参加する。
 - ⑧BCP 計画の完成度を高めるために各部署や職種間で訓練、勉強会等を重ね、3 月度に地域住民との災害訓練を実現する。
 - ⑨法令順守および収入の確保(総稼働率 80%以上/年)と経費の削減を継続的に行う。
- を大きな目標として進めてきた。

- ① については、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント『0』を達成できた。褥瘡においては、3 名の方が褥瘡発生に至ったが褥瘡マネジメント加算等に係る PDCA サイクルも活用し、適切な処置、対応に努めた。集団感染においては、1 月下旬から 2 月上旬にかけて、コロナ感染の利用者(ショートステイの利用者含む)、職員が計 12 名にのぼったが重症となった方はおらず、淡路市や洲本健康福祉事務所(健康管理課)にも報告を行い、指示に沿って適切な対応が出来た。
- ② については、重大アクシデント件数の比較として 2023 年度が 5 件、2024 年度が 2 件と減少となった。2024 年度の内訳としては、「職員の介助による事故(骨折、怪我)」が 2 件となった。
クレーム件数の比較として 2023 年度が 2 件、2024 年度が 2 件と前年度と同件数となった。
2024 年度の内訳としては「利用者への接遇(利用者からのクレーム)」が 1 件、「利用者への整容(家族からのクレーム)」が 1 件あったが、それぞれについて直接ご本人、ご家族にも謝罪、経緯の説明、改善策等を報告し、再発防止を徹底している。
- ③ については、介護リーダー 3 名がユニットリーダー研修の資格を取得した。看護職員においては、正看護師 1 名と准看護師 2 名の配置を見直し、2024 年 4 月から『看護体制加算Ⅰ(イ)12 単位/日(長期入所)』『看護体制加算Ⅱ 8 単位/日(短期入所)』の算定を開始したが、事業所内の看護職員の人員不足等により 2025 年 1 月より加算の取り下げとなった。その他の加算としては、介護ロボット等の活用や協力病院との連携を強化し 4 月に長期入所の利用者を対象に『生産性向上推進体制加算<Ⅱ>10 単位/月』協

力医療機関連携加算 100 単位/月』、6 月に『高齢者施設等感染対策向上加算(Ⅰ)10 単位/月』『高齢者施設等感染対策向上加算(Ⅰ)5 単位/月』に算定を開始し、継続している。

- ④ 2023 年 2 月に全居室(39床)に見守りシステム(離床センサー、カメラ機能など)の導入を行い、介護業務や記録業務の効率化を図り、また見守りシステムで収集しているデータの分析、活用を行いながらより良いサービスの提供と事故等の防止や早期発見に努めた結果、重大アクシデントの減少に繋がった。
- ⑤ については、誕生月の利用者には希望を聞き、家族協力のもと『自宅に帰る(日中)』『外出、外食』行事を行い、10 月には『須磨シーワールド』に利用者、家族と日帰り旅行に行った。地域貢献活動については、9 月に聖隷カーネーションホームと連携し『体験型介護講座(介護技術講習会)』を開催し、1 月には『介護業務イメージアップ推進事業(出前授業)』を東浦中学校 1 年生に「福祉の仕事の魅力」について講演を行った。
- ⑥ については、新規長期入居者 4 名、新規短期入所者 31 名を受け入れた。また、受け入れた利用者の中には独居や身寄りの無い方、認知症状の進行により在宅での生活が困難な方、また医療面においてバルーンカテーテル留置をしている方の受入れも行った。
- ⑦ については、資質向上と職業倫理の徹底に繋がる内外研修や勉強会、活動等への参加を全職員対象に達成することは出来たが、職員個々の能力やレベルにあった研修等を設定し、より効果的な機会となるよう努めていく。
- ⑧ については、BCP の勉強会、実地訓練をそれぞれ 1 回ずつ行い、また BCP 計画の見直し、更新も年度内に行った。地域住民との避難(災害)訓練も運営推進会議のメンバー(町内会長、民生委員など)を通して、地域住民の方にも呼びかけ実施した。
- ⑨ については、介護報酬改定(2024 年 4 月～)の部分においても法令順守を徹底したうえで、新規加算の算定等もあり予算以上の収入を確保することが出来た。ただ、数値目標としていた『総稼働率 80%以上/年』を達成できなかったため、来年度以降も目指していきたい。

2025 年度 事業計画

- 1-1.1-3. 『褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント、集団感染ゼロ』を目指す。
- 1-2.1-6.5-1. 展示会・研修会・会議等への参加を通して幅広い分野での知識習得、資質向上、業務改善を目指す。
- 1-4. クレーム、アクシデント及び重大アクシデント(行政への提出する事故)の件数を前年度より減少させる。
- 1-5. クックデリの完全導入に向けた新たなシステムを確立し、安心・安全な食事サービスを実現する。
- 2-1. 利用者、家族、関係機関、地域住民や学生等との交流や地域貢献活動を行う。
- 2-2. 緊急受入や困難ケース等のニーズに合わせたサービス調整を部署間連携し、柔軟かつ積極的に行う。
- 3-1. 適切な情報収集、発信を行い、ご家族や地域等との情報共有や信頼関係を構築する。
- 6-2. 災害時に事業継続が迅速に行えるよう、災害 BCP 計画(訓練、勉強会を含む)の完成度を高める。
- 6-1.7-1. 法令順守および収入の確保(総稼働率:80%以上/年)と経費削減に取り組む。

2024 年度 総括

ほほえみデイサービスの特徴を生かし、更に前進を志した 2024 年度。

お一人お一人が自分らしく安心して過ごす事ができる心地よい空間づくりを心掛け、安定した環境から、安心と信頼関係が生まれ“やる気を育てる。”この過程が、ほほえみデイサービスの最大の特徴となりました。“やる気”は伝染します。体操・レクリエーション・行事等の参加率が向上し、やりたい事、してほしいことが明確(アンケート等)になり、現在のみんなで作り上げるデイサービスの活動に繋がっています。

新型コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症に悩まされる時期もありましたが、感染対策を強化しながらも、楽しみはそのままに、活動計画は予定どおり実践することができました。

1:あらたな取り組みと、ほほえみデイサービスの特徴

1 安心して過ごせる空間づくり

社会参画の場、地域交流の場を提供します。

- 1)他のご利用者との関係性を考え、自分らしく楽しく過ごせる席をご用意。
- 2)社会的孤独感の解消 固有名詞で個々に話しかけ、役割が持てる居場所や活動を提供。

2 自分らしい生活を支援

- 1)ご家族や主治医・ケアマネージャーとの連携により、包括的かつ継続的な在宅生活を支援。
- 2)体調や病状の変化等、気づいた事を、その都度ご家族や主治医に連絡し早期発見・早期対応に努める。
- 3)ご家族との連携を図り、相談窓口となる。
- 4)ご本人の力を引き出し、自分で決定、自分のやりたいことができる「自立を意識した介護」を提供。

3 ご家族の介護負担減少

- 1) 心身機能の維持・向上に努め、高齢者に配慮した「きざみ食」や「ソフト食」など、利用者の状態に合わせた栄養バランスのとれた食事や、設備の整った施設での入浴、又、配食サービス等のご利用により、ご家族が遠方に入る方、お勤めされている方、また老々介護の方々の介護負担を軽減し、在宅生活を支援する。

4 ご利用者の声に耳を傾ける

“やる気を育てる”

- 1) アンケート調査により、人気の取り組みNO1 「お楽しみ入浴」毎月 1 週間、お楽しみ入浴週間とし、今年度は有名な温泉地の入浴剤を使用しました。【草津温泉】【有馬温泉】【登別】等々、「お楽しみ入浴の日が一番好き」「温まる」「気持ちがいい」と、大好評でした。
- 2) 納涼祭や敬老会、クリスマス会等、職員主体で行っていた行事が、ご利用者参加型となり、更に面白くなりました。帰りの会での「脳トレニング」にも、自作のクイズを披露する方や、こんなことしてほしいとの要望も聞けるようになり、全員で作りに上げる活動が楽しみを倍増している。

5 その他

- 1)介護職離れが懸念される中、新人職員の成長を願いフラットで快適な職場環境を志す。
- 2)親しさの中にも礼儀を重んじてた「接遇」を行う。

2024年度は、接遇の難しさを学んだ1年間でした。どの角度から見ても「接遇マナー」が行き届き、すこぶる良い環境と言えるデイサービスである為に、職員全員で考え継続して取り組んでいきたいテーマです。

新規ご利用者に至っては、ほほえみデイサービスご指名や、ご利用者の紹介等が多数あり32名の新規ご利用者をお迎えすることができました。その中で、21名の方が退所されています。困難事例を受け入れ、試行錯誤の未定着できなかった方が数名います。重度の認知症や視力障碍等の方への寄り添う介護の難しさを痛感しました。

2024年度の平均稼働率 78.0% (昨年比△0.3%) 稼働率は昨年と変わらないのですが、ご利用者の平均介護度が1.9と低下、その伴いご利用単位も下がり、中重度者ケア体制加算の対象外となったことも大きく影響し、大幅に業績が低下しています。週平均30名をめざして運営の安定化を図りましたが、感染症(集団感染は、出ていません。)や緊急入院、当日の体調不良によるキャンセルが例年よりも多く、当初予算には及ばない結果となりました。

新人職員を迎え、新たな環境下でゆっくり成長できるように、専門知識や共有すべき情報は分かりやすい言葉で伝達することで、職員間のコミュニケーションの活性化を図り、フラットで風通しの良い快適な職場環境を目指し取り組んでいます。サービス面では、接遇マナーの見直しと改善、介護技術やサービスの質の向上に努め、施設内外の研修に参加し、専門職としてのスキルアップを図っています。(社会福祉主事研修・実務者研修受講者1名)

広報では、毎月SNSや、会報誌を用いてデイサービスでの生活の様子や活動を随時発信、また、年2回アンケート調査を実施しサービスの質の向上に努めています。

2025年度は、「地域の拠点」となり、ご利用者やご家族、地域の方々との交流と、災害時適切な連携が図れるように基盤となる活動を始めたいと思います。

2025年度 事業計画

1-1-1-2 倫理意識の向上を図り、施設内外の「褥瘡・高齢者虐待・身体拘束・ハラスメント等」の早期発見に努める。

1-3 感染症対策を継続し、集団感染ゼロを目指す。

1-4 同じ事故を繰り返さないように対策の強化と共有を図り、重大事故防止に繋げる。

2-2 緊急・困難ケースを可能な限り受け入れる。

3-1 施設における取組や、活動等を、会報誌やSNSを通じて発信し、開かれたデイサービスとして知名度を上げる。

1-2-5-1 職員の質の向上と職業倫理の徹底を図り、職員レベルに合わせた勉強会の実施と、施設内外の研修会に積極的に参加する。

6-1 災害BCP計画に沿って、災害時に迅速に避難対応が出来るようにする。

7-1 新しいデイサービスのあり方を検討実施し、利用者満足度を向上させる取り組みを行う。

7-1 稼働率の向上や安定した予算管理を行う。

小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ

2024 年度 総括

2024 年度は登録者数 27 名からスタートし、10 月には 29 名となり年間平均が 27 名程度と 2023 年度から上げる事が出来、2022 年度以前と同程度の実績となり、目標値を達成する事が出来ました。新規利用の相談件数が多く、各定員の範囲内で利用調整が出来た事、2023 年度と比べ利用終了者が少なかった事が稼働率増加の要因と考えます。また、引き続き外部ショートステイの受け入れ調整も行えており、小規模多機能以外の方にも、サービスが提供出来るようにしています。介護報酬の改定では、サービス提供体制加算がⅢからⅠへ移行し、総合マネジメント加算Ⅰの新しい要件にも対応する事で介護報酬を上げる事が出来ました。

2023 年度に引き続き、2024 年度も外出行事の充実に取り組んできました。コロナ前まで恒例行事となっていた、一泊旅行を 5 年ぶりに実施し、6 月にご利用者 4 名の方と岡山県へ行ってきました。参加されたご利用者は大変喜ばれており、今後も継続して多くのご利用者に参加していただきたいと考えています。秋には、紅葉見学で有馬への日帰り旅行も実施することが出来ました。他にも、近隣の喫茶点への歩いての外出や外食行事等、気軽にお出かけが出来るようになった事で、ご利用者の「したいこと」の達成や、気分転換、生活の充実に繋がれたと思います。

感染状況については、12 月末～1 月初旬にかけて、ご利用者 6 名の方の新型コロナウイルスの感染がありました。全員が自宅療養や入院療養での対応となり、事業所での療養の方はおられず、職員の感染もなかったため、勤務体制には影響はありませんでした。テーブルの配置変更や共有部分の消毒等を行いました。改めて感染症の拡大防止の難しさを実感し、今後の感染予防や発生時の対応力の向上に繋がっていきたいと思います。

職員状況については、2023 年度末に介護職員が 1 名退職し、4 月に看護職員の退職がありました。看護職員については他部署看護職員の兼務により対応し、介護職員は 12 月の 1 名入職により人員不足が解消されています。新入職員の教育については、各職員でフォローを行いながら、業務に慣れる事が出来るように対応が来ています。職員研修の面では、2024 年度も外部研修への参加数は少なく、2025 年度も継続しての課題となっています。

2025 年度は、職員の異動により介護主任を配置しない体制となります。正規職員間での業務の分担や、主任業務の集約等、引き継ぎをスムーズに行い、ご利用者・ご家族にご迷惑をかけないよう対応していきたくと考えています。また、適切な介護用品の使用や業務の効率化を図りながら職員の負担軽減と、研修参加機会をつくることで職員のスキルアップを図り、ご利用者へのサービスの向上へと繋がっていきたくと思います。

2025 年度 事業計画

- 1-1.褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメントのゼロ宣言を実行し、教育訓練の充実と倫理意識の向上に取り組めます。
- 1-2.5-1. 介護技術や知識について、内部研修、外部研修への参加機会を確保し、各職員の能力向上を図り、ケアの向上に取り組めます。
- 1-3. 感染対策の継続を行い、感染症の発生予防と、発生時の拡大防止に取り組めます。
- 1-4. 予防処置の徹底を行い、アクシデント件数の削減と、大きな事故の発生予防に取り組めます。

- 1-6. 介護ロボット導入の検討と、業務の見直しによる効率化、適切な介護用品を使用する事で介護負担の軽減に取り組みます。
- 2-2. 緊急・困難ケースについて、ショートでの受け入れを含め、可能な限り受け入れるように取り組みます。
- 3-1. 事業所の取り組みの情報発信を継続し、ご家族や地域の方への情報提供を行います。
- 6-2. 災害 BCP 計画に基づいて災害訓練を行い、避難誘導をスムーズに行えるように取り組みます。
- 7-1. 1 年間トータルでの目標稼働率、目標予算の達成に取り組みます。また、物品購入管理を適切に行います。

LEVN

2025 年度 事業方針

- 1-1. 利用者視点でのサービスの質向上と事業の価値創造
- 1-2. 多事業所連携を図り、サービスの向上を目指す
- 1-3 根拠・目的を明確にした質の高いサービスの提供
- 2-1. 事故防止対策の強化
- 2-2 BCP(事業継続計画)を構築及び訓練により、災害時に全職員が行動できる体制作りを目指す(防災対策の強化)
- 3-1. 地域・ご家族に信頼と協力を得るための事業活動の積極的な情報発信を毎月行う
- 3-2. 地域社会との交流事業の実施により事業所の存在意義の確立
- 4-1. 業務の効率化を図り超勤削減やワークライフバランスの推進実施
- 4-2. キャリアアップの仕組の構築(働きがいのある職場へ)
- 5-1. 専門職としての知識・援助の質の向上への取り組み
- 5-2 職員一人ひとりの成長とリーダーの育成を目指す
- 6-1. 介護・保育・障害事業制度及び法人規定・人事・労務等様々な法令順守の徹底
- 6-2. 日々のサービスの振り返りや制度を順守した業務への自己点検体制の構築
- 7-1. 現有資源の有効な活用と経費削減を行い収益差額の増加を目指す
- 7-2. 事業計画と実績との検証を行い、計画通りの事業運営を目指す
- 7-3. 運営の安定化を図るため、施設利用者の確保への取り組みの実施

小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり

2024 年度 総括

2024 年度は昨年度に引き続きぬくもりの PR に力を入れ積極的に外部会議等に参加、空きベッドを利用し短期利用者の受け入れし事業所の知名度、信頼を高める努力を行いました。入院や入所等はあるものの前向きに受け入れ利用者の状態に合わせ必要なサービスに繋げ事業所の評価を上げることができました。その結果として 1 月末時点で年間 12 名の新規依頼を獲得し昨年度平均月登録者 18.0 人であったが今年は

25.9 人まで伸ばすことができました。

サービスに関しましては外出レクリエーションや積極的にボランティアの受け入れなど顧客満足に繋がりました。

また 職員が働きやすい環境作りにも力を入れ業務のマニュアル化や簡素化を行い利用者 と接する時間を増やしたり新たな取り組みを行うことができました。

2025 年度 事業計画

2025 年度計画といたしましては引き続き感染対策をしっかりと行いつつも、ちびっこランドぬくもり、グループホーム RAVIE との交流や地域行事への参加することで地域住民との交流を深めていきます。

利用者、家族、近隣住民、主治医との更なる信頼関係作りに努め、多職種でチームとなり支援していくよう努めます。アセスメントをしっかりと行い利用者1人1人に合わせた支援、個別レクリエーションを行い事業所内に留まらず多様な資源を活用し利用者の生きがい作りに取り組んでいきます。

また 法令順守の周知徹底と職員個々の知識、資質の向上に努めます。またペーパーレス化や業務の効率化、簡素化を推進し職員が働きやすい環境作りに努めます。

そして、小規模多機能型居宅介護事業所という特性を活かし柔軟な対応を行い、利用者へのより良い支援の提供を行うことで選ばれる施設を目指し登録者数確保に努め適切な事業運営を遂行していきます。

千鳥会在宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

2024 年度 総括

2024 年度 1 月まで新規利用者は月平均 4.3 件であり、前年の実績を上回ったものの、要介護のケアプラン件数は 125 件から始まり、6 月に昨年度と同じ最大 135 になることはあったものの、その後少しずつ下落し、ほとんどが 120 件台であり平均 124.5、目標であったケアプラン件数 145 件には至らなかった。また要支援のケアプラン件数は 20 件から始まったが 1 月の段階で 17 件に少しずつ下落、月平均は 18.7 件であった。

件数の推移に関しては 4 月から 6 月まで上昇傾向であったが 7～9 月に新規がほとんどなく、10、11 月で少し上がるもののその後再び落ちてきている。例年と同様に年度初めからしばらくは上昇したが昨年と同様に夏に上昇が鈍くなり秋から冬にかけてやや盛り返すも年度通して下落傾向となった。

新規の件数は昨年より高く、従来の平均 4 件台に回復しているものの、依然終了や入院の件数が多い欠陥となった。

以上より、前年度の反省点であった新規受け入れの抑制をしなかったことはプラスに働いたものの、従来の課題であった終了や入院等による計画数が上がらない点が十分に改善出来ていなかったことが挙げられる。また少数ではあるものの状態改善によりサービス利用終了で計画数が上がらなかったケースもあったが、こちらに関しては問題になるような件数ではなく、むしろ PR になると思われるため来期も引き続き、新規の積極的な受け入れ、ケアマネジメント改善による安定した在宅生活環境の提供を行い、目標件数を目指したい。

2025 年度 事業計画

来期の基本的な方針は昨期同様に、積極的な新規獲得および在宅生活の可及的継続のためケアマネジメントの向上の 2 点を中心に事業を進めていく。

国の動向、保険者の方針など常に情報のアップデートに努め、また本人や家族のニーズをしっかりと聞き取り、より自立した在宅生活を送れるようにケアマネジメントを行う。またそれを職員一人だけではなく、事業所全体で取り組んでいく。そのためにケース検討会議、症例検討会議の場を有効に活用し、事案の解決だけでなく職員のレベルアップを図り社会に求められているケアマネジャーを見極め目指していく。新規獲得に関しても、単に受け入れを止めないだけでなく、上記のようにマネジメントの質を高め、ケア会議や連絡会、自立支援会議、民協等でPR することを通し、社会から求められるケアマネ像を追求することで増加を目指す。

千鳥会在宅介護支援センター（淡路市委託事業）

2024 年度 総括

2024年度は、前年に引き続き、地域の様々な組織と繋がり、地域の問題、課題を見つけ、集め、検討、出来る事を考え取り組んできました。大きな成果としては、独居高齢者訪問事業、民生委員、社会福祉協議会、淡路市健康増進課等と協力しながら2か所の新規いき100会場の立ち上げを行い、健康づくり、地域の集いの場を作る事ができました。淡路市では現在「いきいき 100 歳体操」の推進に力をいれており、他の在宅介護支援センターではいき100の新規会場は立ち上がっておらず、千鳥会在宅介護支援センターが担当する津名、北淡地域それぞれの地域で立ち上がった事で淡路市より評価されました。

また、委託事業の予算目標についても、達成する事ができております。

今後も目指すべきは地域包括ケアシステムの構築だと考えますが、目の前の問題を解決、整理しつつ、形にできるように各機関と協力していきます。

2025 年度 事業計画

2025年度は、高齢者独居訪問、地域応援活動、100歳体操支援についても月間予算目標を重ね、年度の100%達成を目指します。100歳体操とは別にタブレット、アプリを活用した『健康王国』という新しい集いの場の事業がスタートする予定となっており、健康王国についても、100歳体操同様に新規会場の立ち上げに積極的に取り組み、資源である地域の集える場が増える様に取り組みたらと考えております。

また 各組織、各機関と協力、連携を行う中で信頼関係を深め、居宅介護支援事業の利用者の確保にも繋がる様に動きや関わりを工夫します。

少子高齢化、団塊の世代の2025年問題、人材、サービスの不足等が叫ばれて久しいですが、解決にはいたっておりません。それぞれの問題により、淡路市では高齢者の暮らしが脅かされています。高齢者の生活を守るために課題の解決方法を考えたとしても、すぐに政策や実行に移れない内容も多いですが、解決に繋がる様に検討、議論、提案を重ね、誰もが安心して暮らせる仕組みである、地域包括ケアシステムの構築に向け、取り組みを継続します。

家族介護教室・家族介護者交流事業（淡路市委託事業）

2024 年度 総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味ある方を対象に介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに配慮し、計画しております。

感染症等の影響もなく、家族介護者教室については、予定していた5回全てを開催する事ができました。平

均参加者数 10 名となり、前年と比べて平均 4 名増加。ほとんどが介護者 OB ではあるが、今年度は現役介護者が 2 名継続的に参加されました。

家族介護者交流事業については、映画オレンジランプのモデルとなった丹野智文氏の講演会に参加。認知症当事者の生の声を聴け、好評となった。

2025 年度 事業計画

家族介護者教室については前年同様に年 5 回を予定。座談会、医療・健康、作業療法・物作り、福祉用具、施設見学、実技、終活・成年後見、様々な介護保険サービスについての説明、その他等の内容を選定、組み合わせ実施。依然として介護者 OB の方が多い現状となっているが、現役で介護を行っている参加者についても家族会や各ケアマネジャーを通じ、案内し、参加者数が増える様に募っていきます。

高齢者住宅等安心確保事業(淡路市委託事業)

2024 年度 総括

高齢者住宅入居者が地域に於いて自立した日常生活を営める環境、相互支援が可能なコミュニティの形成。効果的な社会資源の利用による、高齢者住宅入居者の QOL の維持、向上に努める

2025 年度 事業計画

1. 高齢者住宅入居者緊急時への 24 時間、365 日対応。
2. 行政、民生委員、社協、介護支援専門員、地域住民等との情報交換による連携。
3. 生活援助員としての基本サービス、力量の向上。
 - ・週 1 回以上の訪問もしくは電話での安否確認、相談、緊急時の対応の継続。
 - ・入居者の介護、医療等に関する生活相談、情報提供を行う。
 - ・入居者の生活上の問題点について行政、介護サービス事業所等の関係機関へ連絡し、適切な社会資源の利用や自立支援を促す。教育訓練・研修による生活援助員の力量の向上を図る。不足している資質を把握し、向上できるようにする。
 - ・「気付き」を築く感性の強化の為の教育訓練・研修への参加。
 - ・組織内の連携向上による、事業活動の円滑化に努める。
 - ・コミュニケーションによる入居者との信頼関係の向上と、生活上の安心の確保に努める。

*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

ちびっこランドぬくもり

2024 年度 総括

2023 年 2 月に開設し少しずつ地域の方にもぬくもりの存在を知っていただくことができ、たくさんのご家庭とのご縁を結ぶことができた 1 年となりました。子どもたちにとって「第二の家庭」となるよう保育環境に配慮し、一人ひとりの人格を尊重しながら、丁寧な保育を心掛け信頼関係を育てていくことを大切にしてきました。

子どもたちの思いに寄り添いながらさまざまな経験を通して、子ども主体の保育実践に努め、視野を広く持ち個々の気付きや発信を増やし保育計画を取り組むことができました。

行事に関しては季節に応じた行事計画を作成・実施、感染状況を見ながらですが、小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもりのご利用者、グループホーム RAVIE のご利用者、ちびっこランドちどりの園児たちとの交流行事も積極的に計画し実施することが出来ました。保護者様からの喜びの声も多く、子どもたちにとってかけがえのない経験をすることができ、個々の成長に繋げることができました。

少子化の進行や乳幼児がいる共働き家庭の増加など社会の状況は大きく変化しており、乳幼児の成育環境として園が果たす役割や園に対する期待はますます大きくなっています。

今後も保護者と保育者が密な情報交換を行い子どもたちの環境づくりに努め、地域における子育てニーズを把握し地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上と保育環境や保育機能また、保育内容の充実を図り計画、実施していきたいと思います。

2025 年度 事業計画

年齢に応じた落ち着いた保育環境の中で子どもたちが安心して、安定した生活が保障され充実した毎日を送れるよう、就労支援と育児支援の両方の社会的相互効果を深める保育計画を立案し実施していきます。保護者や地域の子育て家庭に情報を発信し、子育て力向上の充実を図りながら、一時保育や土日保育など、地域のニーズに対応した保育を行います。

四季を肌で感じる様々な遊びや行事を計画し、実際になんでも経験し、実感できる保育を実施していきます。感染状況を見ながら、地域・併設事業所等の交流行事も検討していきます。

災害に備え、園児・職員の安全を第一として様々な場面を想定した災害時訓練の実施と園内外の設備等の安全確認を実施します。

グループホーム RAVIE

2024 年度 総括

事業開始から2年目の年は稼働率を上げるために取り組みを行いました。日中の就労が休みのときには自宅へ帰られていたご利用者でしたが、週末や祝日など RAVIE でイベントを開催し、ご利用者に参加していただくことで、前年度平均稼働率57.4%だったのが、今年度平均稼働率83.6%(1/31現在)となり、稼働率の向上が出来ました。毎日、RAVIE を利用していただくことで、自分で掃除や洗濯ができるようになり、自立した生活が出来るようになりました。ご利用者の成長を感じた1年となりました。

毎月、イベントを開催し、参加することで、ご利用者にとり楽しみのある生活が送れたかと思えます。

また 他事業所のご利用者・園児との交流や、地域との交流を行い、ご利用者にとって貴重な経験・体験をすることが出来たと思えます。9月に開催したバーベキューでは、ご利用者のご家族にも参加していただき、家族同士の交流もすることが出来ました。

年間を通して、フットサル交流会に参加し、体を動かし、汗を流し、リフレッシュすることができました。

広報活動にも取り組みました。インスタグラムを通じて、RAVIE の事業の紹介をすることが出来、たくさんの方に RAVIE の取り組みを見ていただけたと思えます。いいねやコメントもいただくことが出来、RAVIE の事業に関し、興味や関心を持っておられることを感じ、大変うれしかったです。LEVN としても広報誌を発行し、市内の関係機関へ広報活動をすることが出来ました。ご利用者のご家族にも広報誌をお配りし、ご利用者

の RAVIE での生活の様子を見ていただきました。

感染症に関しましては、年末に、ご利用者インフルエンザ A 型感染2名、年明けに職員が新型コロナウイルス感染1名おりましたが、それ以上拡大することなく、大きな被害には発展しませんでした。日頃より、感染対策や、ご利用者の体調確認を行っていたおかげだと思います。

職員の知識や技術向上のため、事業所内の教育訓練や、外部研修・講習に参加しました。直接援助にあたる職員にも外部研修に参加してもらい、ご利用者の生活を支える障害福祉施設職員の役割と専門性について学んできてもらいました。学んだことを業務内に落とし込み、ご利用者の支援に取り組みました。

運営に関しましては、本部より繰入を行いながら、運営しておりましたが、稼働率向上のため収益を上げることが出来たことから、当初の繰入金額を全額繰入しなくても運営することが出来ました。

地域での活動に関しましては、淡路島内全域で行われている淡路障害者自立支援協議会のサービス管理責任者部会に属し、島内の障害事業についての現状把握や情報共有に取り組みました。市内におきましては、津名の地域ケア会議に出席し、津名地域の現状や課題などを多様にとらえ、取り組みを行いました。

2024 年度 事業計画

2025年度は、RAVIE 定員を5名より10名に増やし、稼働率の向上に努め、収益の確保に努め、経費削減を継続し、安定した運営が行えるように、取り組みとともに、昨年度に引き続き、ご利用者がRAVIEで過ごしたくなるようなイベントの開催、日々の支援について職員全体で行動していきます。

また、今後起こりうる災害発生に関しても、業務が継続できるよう、BCP計画の活用訓練を行い、見直しを行いながら、運営を進めていきます。

グループホームしおさい・しおさいデイサービスセンター

2025 年度 事業方針

1. 福祉圏域における認知症対応型サービスの専門性を活かし、地域への認知症ケアにおいて主たる社会資源として機能する。居住・在宅サービス共に、法人理念・事業所理念に沿って長年積み重ねてきた認知症ケアを利用者へと還元していく。
2. 感染症予防や非常災害対策に備えながら、住まいは変われども同じ地域で地域住民としての利用者の暮らしを支援していく。
3. 所属法人の垣根を超えた関係機関のネットワークのもと、福祉学習や地域福祉活動に共同して携わる。福祉圏域における事業所の役割や存在価値を高める。
- 4.5 専門職を揃えたチームケアのなかで、引き続き年齢や得意分野に応じた職員ひとりひとりの役割の明確化と居場所作りを行う。職員の高年齢化にあっても長く活躍できるよう業務の在り方や働き方を随時アレンジしていく。
4. 職員の高年齢化にあたり、過度な心身の負担なく業務が継続できるよう、利用者職員にとって安全安楽な介護が提供できる施設環境の設備を改善していく。
6. 専門性の高い居住・在宅サービス提供の結果として稼働率の維持に努め、大規模修繕に向けて収益の安定をより確固たるものとしていく。

2024 年度 総括

2024 年度はコロナ禍以前の生活様式を取り戻すことと、引き続きの感染症予防への取り組みを継続しながらも、コロナ禍以前の生活様式を本格的に取り戻していく年度となりました。具体的には、ご利用者の生活においてご家族と共に過ごす時間や機会の増加ばかり、また地域住民として事業所より積極的に地域活動に参加する機会を意図的に設けることができるよう支援をしてきました。ご利用者とご家族との直接面会はもとより、外食や外泊も含めてご家族と共に過ごす機会の提供を再開しています。つきましては、事業所とご家族互いの信頼関係をベースにした感染症予防への共通認識を保ち、互いの体調や健康状態の情報交換をしながら、外出外泊の再開と継続に努めています。月あたりの面会者数は30～40組を超え、外出外泊も週1組以上の実績となっています。事業所で過ごす姿をご家族とともに見守り支える事で、ご利用者の心身の活動により影響を与えることを再認識しています。また事業所からもご利用者の様々な地域活動への参加を支援しています。地域の祭事への参加、住民として編み物教室等サークル活動への参加、同じ圏域の他法人特別養護老人ホームや社会福祉協議会とネットワークを構築し、学校やこども園との交流などの機会も再開することができています。

事業運営においては、熱中症や家族の事情による関係機関からの緊急的なショートステイ受け入れ相談に、数多く応需。地域への認知症ケアを還元するなかで、結果として入居サービスとショートステイを合算すると99%を超える稼働率を維持し、安定した収支と事業所運営につながりました。

入居サービスにショートステイ・共用型認知症デイサービスを一体的に提供し、地域に根差した事業所の在り方を実践しつつ、地域に認知症ケアの専門性を還元できたと考えています。

2025 年度 事業計画

2025年度は事業所開設21年目を迎えます。長年活躍した職員の高年齢化が顕著となっています。メリットデメリットの両面をとらえ、長く培った特殊なスキルを活かし末永く職員が活躍できるよう体力的に負担の少ない業務改善を図ります。また身体的負担を軽減するための、施設環境の整備にもより一層取り組んでいきます。引き続き旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症の専門的なサービスとして、施設サービス在宅サービスを一体的に提供し、地域の社会資源として今以上に機能し続けることが責務ともいえます。今年度も専門性の高い認知症ケアの提供のもと、入居利用者への質の高いサービス提供、ショートステイ・共用型認知症デイサービス含めた在宅サービスへの支援にも努めます。地域の期待や役割に応えながら、地域密着型のサービスとして、各関係機関との連携や地域住民との交流の機会も積極的に見出し、グループホームしおさいの新たなカタチを確立していきたいと考えています。

佐野デイサービスセンター

2025 年度 事業方針

1. 単独の通所事業所の強みを活かせる様、事業所内教育を用いて職員個々の質の向上を図る。
2. 感染対策を講じながら、感染症の位置づけが変化する中での外出行事や施設内レクの向上を図る。
3. SNSを活用し、社会に情報発信を行う。

4. 職員の声を聴き、働きやすい環境づくりを行う。
5. 専門職としての質の向上を図るため、積極的な内部・外部研修への参加を図る。
6. 法令に関して勉強会を行い、コンプライアンスの徹底を図る。
7. 稼働率の向上、経費削減を行う事で安定した収入を確保する。

2024 年度 総括

今年度の稼働率の平均は 87.5% (前年度比較+11.6%)。延べ利用者数 5688 人 (+769 人)。新規利用者数 27 名 (-6 名) となっており、利用者確保、収益確保ができました。8 月に介護職員、12 月に看護職員を向かえ、より一層職員で力を合わせ、業務改善、業務分担、業務内容の見直しを図ることでサービスの質を落とすことなく、デイサービスとしてのサービスの維持ができました。事故・アクシデントについてはリスクマネジメントを行う事で、大きなクレームや事故に繋がる事もなく対応ができ、また引き続き感染予防対策を行う事で、安心・安全に利用していただくことができました。職員が増えたことで今まで出来なかった行事にも挑戦することができ、出来る範囲の中で利用者満足度を向上させる取り組みはできました。

2025 年度 事業計画

2025 年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持、向上する事で、収益を確保していきたい。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い安心・安全な運営に努めたい。

ちびっこランドちどり

2025 年度 事業方針

- 1-1 利用者満足の向上を目指し、新たな取り組みやサービスを実施し、同時に現状の保育サービスの見直しを行う。
- 1-2 他事業所との連携を図り、サービス向上を目指す。
- 1-3 地域や家庭のニーズに応じたサービスの展開をはかる。
- 2-1 すべての子どもが健やかに成長できるよう、適切な環境のもと、暖かで家庭的な保育の実現を目指す
- 2-2 BCP 計画を構築し、職員の災害時における対応力の向上を図る。
- 3-1 利用者・家族・地域の声に耳を傾け、SNS 等を通じて情報発信を定期的に行う。
- 3-2 地域社会・他事業所との交流を積極的に行う。
- 4-1 SNS の利用や地域との交流を通じ、ちびっこランドちどりの良さを発信し、雇用促進に繋げて
- 4-2 各職員の特性が活かされるよう、働きやすい職場環境を整える。
- 5-1 常に日々の業務を振り返り、改善の意識を持ち、職務の評価、フィードバックを継続的に行う。
- 5-2 職員の資質向上を目指し各種研修会の開催や外部研修会に積極的に参加する。
- 6-1 保育理念を踏まえ、常に法令等を遵守するとともに報告・連絡・相談を円滑にする環境を整える。
- 7-1 経費削減に努めながら、事業所運営に必要な安定した収入の確保する。

7-2 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

2024 年度 総括

2024年は、月極園児12名の入所から始まり、5月、6月、8月に1名ずつ増員し、計15名で保育をすすめてまいりました。地域の方々からの一時預かり保育の依頼も増え、存在を知っていただけていることを嬉しく思いました。その方々との出会いを大切に、異年齢児が安心、安全に過ごすことのできる保育環境を整え、子ども達が自ら考え、やる気を持って取り組むことが出来る保育を職員で計画し、実行してきました。毎月の誕生日会をはじめ、四季の行事や、他事業所の方との交流において、色々な方と触れ合い、子ども達の笑顔を多く見ることが出来、保護者の方からの喜びの声も多くいただくことが出来ました。

感染におきましては、冬場に感染性胃腸炎が流行し、改めて感染対策の見直しと、感染時における職員の対応を話し合い、改善してきました。マスクが出来ず、何でも口にに入れてしまう乳児の対応については、日頃からの、子ども・職員の健康観察と、手洗い・換気・玩具の消毒など、感染予防に気を付け過ぎていく大切さを改めて感じました。

食育活動におきましては、今年度も季節の野菜を育て、収穫し、クッキング活動を計画しました。夏場の猛暑の影響で、野菜の生育にも影響が出てしまいましたが、その場に応じた計画を職員間で考え、子どもたちが食べ物について興味・関心が持てるよう配慮してきました。

保護者に対する支援におきましては、子育ての悩みに共感し、助言をし、一人ひとり向き合うよう努めてまいりました。また、SNSを活用し、園生活の様子、行事の公開等、子どもたちの成長を届けることに努めました。

保護者の皆様にもご協力を頂いたおかげで、大きな混乱もなく、子どもたちが安心して園生活を送り、無事に一年を終えることが出来ました。今後もより良い保育を提供し、子ども達が笑顔で過ごせる保育園を目指し、努力していきたいと思えます。

2025 年度 事業計画

子どもたちが安全で楽しく、主体的な園生活を送れるような環境の工夫と設備充実を図り、丁寧な働きかけのもとに、自分の体を守る知恵や習慣を身につけられるよう、成長を見守ります。子どもたちが、自らやってみようと思える保育計画を作成し、何にでも経験する・体験する場を増やしていきます。園児・職員の安全を第一に考え、災害時や感染時の対策を行うとともに、臨機応変な変更・見直しを行います。SNSで園での様子や情報を提供し、一時保育や、土日保育など、地域や各家庭のニーズに応じた保育を行います。職員間で日々の保育や業務の振り返りを継続的に実施し、共通の理解と協調性を高め、保育の質の向上に努めます。

福祉用具貸与事業所

2025 年度 事業方針
1-1. サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために事故防止に努める。 1-2. 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。 1-3. 教育訓練を充実させることにより、倫理意識の向上に努める。 6-2 2025 年度介護報酬改定法令を遵守し、適正な収入を確保し、健全な運営を実施する。 7-1 稼働率の向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。 7-2 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を実施する。
2024 年度 総括
2024 年度も北淡荘の利用者に福祉用具の貸与を行いました。福祉用具を利用して頂く事で、利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の希望や心身の状況・生活環境などをふまえ、今後も適切な用具を選び援助していきたいと思っています。
2025 年度 事業計画
福祉用具とは、車いすや手すりなど、高齢者や障害者の自立をサポートし、介護する方の負担を軽減する用具を指します。 福祉用具貸与事業は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送る事ができるよう、指定を受けた事業者が、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な福祉用具を選ぶための援助や取り付け、調整を行い福祉用具を貸与します。